

2026(令和8)年度

募 集 要 項

大学院文学研究科

博士前期課程 一般入学試験

博士前期課程 社会人入学試験

博士後期課程 入学試験

3つのポリシー 文学研究科（博士前期課程）	
ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）	
文学研究科博士前期課程では、学問の意義と研究者の責務を理解し、所定の年限在籍、必要単位を履修し十分な学力を獲得して、適切な研究指導に基づく修士論文の作成及び最終試験合格の要件を満たした場合において、修士（文学・文化財学）を授与します。	
1. 学問の意義と研究者の倫理的・社会的責任を理解する。 2. 専門分野に関する研究上の自己確立を目指す。 3. 高度の専門性を有する職業等に必要能力を備える。 4. 専門的知識と研究能力を活かし、学術的・社会的貢献にむけて努力する。	
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
文学研究科博士前期課程では、学問の意義と研究者の責任を正しく理解し、研究上の自己確立・社会的自立・社会貢献を達成する人材育成のために、以下の教育課程を編成し、実施しています。	
1. 専門教育 基礎的領域に関する知識・技能の再確認を行う科目をはじめ、隣接諸学・補助学等の多彩な科目を設置、他専攻の開講科目も履修可能とし、豊かな学問基盤を形成する。個別専攻分野の高度な学術研究に加え、社会的自立・社会貢献に資する科目群も開設している。 2. 研究指導 大学院生一人一人の関心・能力に合わせた個別的指導と、協働・対話を重視する小集団の指導を適切に組み合わせ、貴重書・美術資料・分析機材等、本学独自の施設設備を活用した教育を行い、独創的で高度な研究を目指す。	
アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）	
文学研究科博士前期課程では、学問の意義を正しく理解し、新たな知的価値を創造して社会に貢献する、以下のような人を歓迎します。	
1. 学問の意義を理解し、倫理的・社会的責任を自覚している人。 2. 学士課程修了段階に相当する十分な学力を有する人。 3. 研究成果に基づき社会的に自立する強い意志を持つ人。 4. 専門的知識・技能により学術的・社会的貢献を目指す人。	
3つのポリシー 文学研究科（博士後期課程）	
ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）	
文学研究科博士後期課程では、学問の意義と倫理的・社会的責務を理解し、研究者としての能力を錬磨して、所定の年限在籍し必要単位を履修のうえ、適切な研究指導に基づき高度の学術的達成が認められる博士論文を作成し、最終試験合格の要件を満たした場合において、博士（文学・文化財学）を授与します。	
上記以外の学位請求論文については、博士後期課程修了者と同等以上の学力を有すると認められ、論文審査及び最終試験合格の要件を満たした場合において、博士（文学・文化財学）を授与します。	
1. 学問の意義と研究者の倫理的・社会的責任を深く理解する。 2. 独自の研究を基盤として自己確立を達成する。 3. 高度に専門的な業務に必要な能力と見識を有する。 4. 専門的知識と研究能力を活かし、知的価値創造と社会的貢献に資する。	
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
文学研究科博士後期課程では、学問の意義と研究者の責任を深く理解し、高い見識と独創的研究への道を開き、専門的職業に従事して社会的に自立し、研究成果を説得的に伝達する能力を備えた人材育成のために、以下の教育課程を編成し、実施しています。	
1. 専門教育 徹底した実証性と明晰な論理性を重視する専門性の高い科目を設置し、研究対象の特性に即した犀利な分析法や幅広い視野で研究を構築する能力を養成する。 2. 研究指導 前期課程の成果を踏まえ、より高度で専門的な研究指導を行う。後期課程に在籍する学生を自立した研究者として鍛え、獲得した学術的知見を説得的・客観的に伝達し発信する能力を養成する。学術と社会の発展に寄与する指導的人材の育成を目指すものである。	
アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）	
文学研究科博士後期課程では、学問の意義を深く理解し、独創性豊かな研究を遂行して社会に貢献する、以下のような人を歓迎します。	
1. 学問の意義を深く理解し、倫理的・社会的責任を自覚している人。 2. 専門分野に関する高度な知識・技能を持ち、独自の発想ができる人。 3. より高度な専門的業務に従事するための能力を有する人。 4. 研究成果を発信し、学術的・社会的貢献を目指す人。	

目次	
1. 入学者選抜方針	1
2. 募集人員・入試日程	1
3. 博士前期課程	2
出願資格／出願書類と記入上の注意	2
出願書類提出方法／	
受験または就学上の配慮に関する事前相談について／	3
入学検定料及び納入方法について／受験当日の注意について	
入試における不正行為の取扱いについて	4
選考方法／筆記試験科目／試験場／時間割	5
合格発表について	6
可否確認手順について／入学手続について	7
長期履修制度について	8
学納金等について	9
博士前期課程の概要	10
専攻の特色 日本文学専攻	11
専攻の特色 英米文学専攻	12
専攻の特色 文化財学専攻	13
専攻の特色 ドキュメンテーション専攻	14
4. 博士後期課程	15
出願資格／出願書類と記入上の注意／出願書類提出方法	15
受験または就学上の配慮に関する事前相談について／入学検定料及び納入方法について／受験当日の注意について	16
入試における不正行為の取扱いについて	17
選考方法／筆記試験科目／試験場／時間割／合格発表について	18
可否確認手順について／入学手続について	19
長期履修制度について	20
学納金等について	21
博士後期課程の概要	22
専攻の特色 日本文学専攻	23
専攻の特色 英米文学専攻	24
専攻の特色 文化財学専攻	26
専攻の特色 ドキュメンテーション専攻	27
5. その他	28
教育職員免許状の取得／奨学金制度	28
本学試験会場案内図	29

1. 入学者選抜方針

博士前期課程

- 【一般入試】 研究を達成するために必要な学力を有しているかを問うのが主眼であり、筆記試験（専門科目・外国語）を課し、学問の意義に対する理解・自己の研究に対する展望などをあわせて問います。
判定は、筆記試験・口述試問・調査書・単位成績証明書・研究計画書により、総合的に行います。
- 【社会人入試】 社会経験に支えられた洞察力・学問への意欲および研究に必要な学力を有しているかを評価します。
判定は、日本文学専攻では口述試問・調査書・単位成績証明書・研究計画書により、英米文学専攻では筆記試験（外国語としての英語）・口述試問・調査書・単位成績証明書・研究計画書により、文化財学専攻では口述試問・調査書・単位成績証明書・研究計画書・小論文・論文、ドキュメンテーション専攻では筆記試験（英語）・口述試問・調査書・単位成績証明書・研究計画書により、総合的に行います。

博士後期課程

高度な専門的知識・技能と研究に取り組む真摯な姿勢を評価します。
判定は、日本文学専攻では研究計画書・口述試問・調査書・単位成績証明書・論文により、英米文学専攻では修士論文・研究計画書・口述試問・調査書・単位成績証明書により、文化財学専攻・ドキュメンテーション専攻では筆記試験（英語）・研究計画書・口述試問・調査書・単位成績証明書・論文により、総合的に行います。

2. 募集人員・入試日程

博士前期課程

募集人員： 日本文学専攻 5人、英米文学専攻 5人、文化財学専攻 3人、ドキュメンテーション専攻 3人

	専攻	入試区分	出願期間	選考日	合格発表日	入学手続締切日
秋季	日本文学専攻	一般入試	インターネット出願 2025年9月16日(火)～9月28日(日) 17:00 出願登録締切 出願書類：9月30日(火)願書受付センター必着	10月11日 (土)	10月15日 (水)	10月30日 (木)
		社会人入試				
	英米文学専攻	一般入試				
		社会人入試				
	文化財学専攻	一般入試				
		社会人入試				
	ドキュメンテーション専攻	一般入試				
		社会人入試				
春季	日本文学専攻	一般入試	インターネット出願 2026年1月13日(火)～1月25日(日) 17:00 出願登録締切 出願書類：1月27日(火)願書受付センター必着	2月7日 (土)	2月12日 (木)	3月5日 (木)
		社会人入試				
	英米文学専攻	一般入試				
		社会人入試				
	文化財学専攻	一般入試				
		社会人入試				
	ドキュメンテーション専攻	一般入試				
		社会人入試				

博士後期課程

募集人員： 日本文学専攻 2人、英米文学専攻 2人、文化財学専攻 2人、ドキュメンテーション専攻 2人

専攻	出願期間	選考日	合格発表日	入学手続締切日
日本文学専攻	インターネット出願 2026年1月13日(火)～1月25日(日) 17:00 出願登録締切 出願書類：1月27日(火)願書受付センター必着	2月7日 (土)	2月12日 (木)	3月5日 (木)
英米文学専攻				
文化財学専攻				
ドキュメンテーション専攻				

出願済みの受験生が新型コロナウイルス感染症等に罹患し、やむを得ず受験ができない場合は試験当日 9:00 までに入試センターへご連絡ください。

受験機会確保の観点から、追試および振替受験の対応について相談に応じます。

追試及び振替受験をする場合は、医療機関等による罹患の証明書が必要になります。（後日提出可）

3. 博士前期課程

出願資格

【一般入試】

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者および 2026 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者および 2026 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および 2026 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 文部科学大臣の指定した者

【社会人入試】

大学卒業後、3 年以上経過した者

出願書類と記入上の注意

●必要書類として別途郵送が必要となるもの

調 査 書	本学所定用紙を使用してください。 ※鶴見大学文学部卒業生および卒業見込み者は、「在学中の状況および所見」欄・「推薦理由」欄の記入は不要です。（推薦者職名・氏名および印は必要です。） ※文化財学専攻志願者および社会人入試志願者は、推薦書の記入は不要です。
卒業証明書または 卒業見込証明書	大学において記入厳封のうえ交付されたものを提出してください。 ※各選考日より 3 箇月以内に発行されたものに限りです。
単 位 成 績 証 明 書	※改姓等により、単位成績証明書・卒業証明書等に記載の氏名が現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できるもの（戸籍抄本等）を併せて提出してください。（コピー不可）
「在留カード」の写し(コピー)	<u>在留中の外国籍の志願者のみ提出</u>してください。
研 究 計 画 書	専攻しようとする分野のテーマについて、下記の書式に従い提出してください。（題名・氏名を必ず明記すること。） 《日本文学専攻》A4 判（縦・横書き、いずれも可） 一般入試志願者 600 字程度、社会人入試志願者 2,000 字程度 《英米文学専攻》A4 判（横書き）2,000 字程度 《文化財学専攻》A4 判（縦・横書き、いずれも可）2,000 字程度 《ドキュメンテーション専攻》A4 判（縦・横書き、いずれも可）2,000 字程度
職 務 経 歴 書	<u>ドキュメンテーション専攻志願者のうち、有職者のみ提出</u>してください。 A4 判（横書き）1～2 枚程度
履 歴 書	本学所定の用紙を使用してください。 <u>文化財学専攻、ドキュメンテーション専攻の志願者のみ提出</u>してください。
論 文	卒業論文可、コピー可 <u>【春季】一般入学試験 文化財学専攻、【秋季】【春季】社会人入試 文化財学専攻の志願者のみ提出</u>してください。

出願書類提出方法

郵 送

簡易書留・速達で郵送してください。

*出願書類一式をインターネット出願登録後に出力した宛名ラベルを貼付した封筒に入れ提出してください。
なお、一度受理した提出書類並びに入学検定料は、返還いたしません。

受験または就学上の配慮に関する事前相談について

身体機能の障がいや疾病および怪我などにより、入学試験を受ける際、または入学後の学生生活において特別の配慮を必要とする方は、本学の教育方法や支援体制および施設設備などで対応することが可能かを協議するため、本学との事前相談を行う必要がありますので、必ず**出願前（※各選考日の1箇月前まで）**に入試センターへご連絡ください。事前相談の結果に基づき、障がいや疾病等の程度に応じた可能な範囲の措置を講じます。

ただし、ご希望のすべてに対応できるとは限りませんので予めご承知おきください。また、配慮内容によっては、関係する書類の提出を求める場合や、対応に時間を要する場合がありますので、できるだけお早めにご連絡ください。

なお、出願後に大きな病気や怪我をし、受験上の配慮が必要となった場合も、速やかに入試センターまでご連絡ください。

入学検定料および納入方法について

■入学検定料

30,000円

■納入方法

別途「大学出願ネット出願の手引き」をご参照ください。

■入学検定料に関する注意

納入された入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還いたしません。

- ・検定料を納入したが、出願書類を提出しなかった場合
- ・検定料を納入し、出願書類を提出したが、出願が受理されなかった場合
- ・検定料を誤って、所定の金額よりも多く納入した場合

〔返還請求方法〕 本学入試センターまでお問合せください。「入学検定料返還願（本学所定用紙）」をお送りしますので、必要事項を記入のうえ提出してください。

受験当日の注意について

熟読のうえ入学試験に臨んでください。

- (1)受験票は必ず持参してください。万一、受験票を紛失または忘れた場合は、入場の際に受付に申出て仮受験票の交付を受けてください。
- (2)試験場入場の際、受付において係員が受験票を確認しますので提示してください。
- (3)試験場は、受付開始時刻から入場できます。受験番号により案内しますので受験番号を確認しておいてください。出欠調査開始時刻までに、受験番号が貼付けられた指定の席に着席してください。
- (4)試験場内では試験監督者の指示に従ってください。
- (5)試験場内では、携帯電話等の電源を切ってカバンに収納してください。
- (6)筆記試験の解答には、鉛筆を使用してください。
- (7)筆記試験中机上に置けるものは、受験票・鉛筆・消しゴム・時計（時刻表示以外の機能を備えているものは使用禁止、アラームは消しておくこと。）および辞書（持込み可の指定がある科目に限ります。電子辞書は不可）のみとし、これ以外の所持品は置かないでください。下敷きを持参しても使用できません。
- (8)上履きを用意する必要はありません。
- (9)試験終了まで試験場の外には出られません。午後まで試験のある受験生は、昼食を持参してください。試験場内での昼食の販売は行いません。
- (10)付添者の入場はできません。

■入学試験時の不測の事態の対応について

不測の事態（気象災害、交通事故または災害等により交通機関の運行に支障をきたした場合等）の対応窓口・お問合せ先は下記のとおりです。

鶴見大学入試センター TEL 045-580-8219・8220

※緊急のお知らせがある場合は、受験生応援サイトに掲出します。 (<https://support.tsurumi-u.ac.jp>)

【重要】入試における不正行為の取扱いについて

鶴見大学では、真摯に受験に臨む受験生の皆さんが不利益を被ることがないように、不正行為者に対し、厳正な措置を執ります。

ついては、入学者選抜試験における不正行為およびその取扱いを次のとおりとします。

なお、今回公表する内容は現時点のものであり、今後変更する可能性もありますので、本学からの発表にご注意願います。

(不正行為を行った場合の取扱いについて)

不正行為を行った場合は失格となり、当日の入学試験の全教科に加え、出願した本学の本年度入学試験のすべての教科の得点を無効とします。(大学入学共通テスト利用型についても全教科・科目の得点を無効とします。既に合格した本学の学試験がある場合は合格を取り消します。)

その場合、入学検定料は返還されません。

行った不正行為に関して、不正行為者の保護者および在籍(出身)大学に対して報告する場合があります。

なお、試験終了後に不正行為が発覚した場合であっても、同様に取扱いします。

(出願書類について)

出願の際に当学に提出した書類・資料、提供した情報等に偽造・虚偽記載・剽窃等があった場合は、不正行為となる場合があります。

(筆記試験について)

○不正行為となること

1.カンニング行為(試験科目に関するメモやコピーなどを机上等に置いたり見たりすること、使用を許可されていない教科書、参考書、辞書等の内容を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。)をすること。

2.他の受験者に答えを教えたり、カンニングの手助けをしたりすること。

3.「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり、解答を始めたりすること。

4.「解答やめ」の指示の後に、解答を続けること。

5.試験時間中に、使用を許可されていない物品(補助具や電子機器類など)を使用すること。

※携帯電話、スマートフォン、タブレット型端末、ウェアラブル端末等の電子機器については、電源のON/OFFに関わらずかばんの外に出ていた時点で使用とみなします。

6.別の受験者になりすまして受験すること。

7.問題冊子や解答用紙を試験室から持ち出すこと。

○不正行為となる場合があること

1.試験時間中に、使用を許可されていない書籍類・補助具・電子機器類をかばん等にしまわず、身につけていたり手に持っていたりすること。

2.試験時間中に携帯電話や時計の音(着信・アラーム・振動音など)を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。

3.試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申し出をすること。

4.問題冊子や解答用紙の見せ合い、話し合い、のぞき見等の疑いのある行為を行うこと。

5.試験時間中に、長い間机の下に手を入れたり、服のポケット等に手を入れたりすること。

6.試験場において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。

7.試験場において、監督者の指示に従わないこと。

8.その他、試験の公平性を損なう恐れのある行為をすること。

(面接試験について)

○不正行為となること

1.面接試験中に他の人と連絡をとりあうこと。

2.面接試験の録画・録音、またはそれをSNS等のインターネット上へ掲載すること。

3.面接終了後に、これから面接をおこなう他の受験生に内容を伝えること。

○不正行為となる場合があること

1.受験者控室または面接室前で無用な会話をすること。

2.受験者控室または面接室前で待ち時間に携帯電話等の通信機器を使用すること。

3.受験者控室または面接室前で係員の指示に従わないこと。

4.その他、試験の公平性を損なう恐れのある行為をすること。

選考方法

【一般入試】

筆記試験、口述試問、調査書、単位成績証明書、研究計画書による総合判定
(文化財学専攻【春季】のみ、上記に加え論文(卒業論文可))

【社会人入試】

日本文学専攻	口述試問、調査書、単位成績証明書、研究計画書による総合判定
英米文学専攻	筆記試験(外国語科目としての英語)、口述試問、調査書、単位成績証明書、研究計画書による総合判定
文化財学専攻	口述試問、調査書、単位成績証明書、研究計画書、小論文、論文による総合判定
ドキュメンテーション専攻	筆記試験(英語)、口述試問、調査書、単位成績証明書、研究計画書による総合判定

筆記試験科目

【一般入試】

専 攻	専 門 科 目	外 国 語 科 目
日本文学専攻	日本文学	英語・フランス語・ドイツ語・中国語のうちから出願時に1か国語選択(辞書持込可。ただし電子辞書は不可。)
英米文学専攻	英米文学・英米文化・英語教育・英語学より出願時に1分野選択	英語・フランス語・ドイツ語・中国語のうちから出願時に1か国語選択(フランス語・ドイツ語・中国語は辞書持込可。ただし電子辞書は不可。)
文化財学専攻	歴史学・考古学・美術史学・文化財科学	英語(辞書持込可。ただし電子辞書は不可。)
ドキュメンテーション専攻	図書館学・書誌学・情報学より出願時に1分野選択	英語(辞書持込可。ただし電子辞書は不可。)

注1) 文化財学専攻の専門科目は、4分野より各分野複数出題するので、2問を選択し解答してください。(ただし、2分野にわたっての解答も可)

注2) 外国語科目の受験について、英語・フランス語・ドイツ語・中国語のいずれかを母語とする受験者は、(母語以外の外国語が選択可能な専攻は)母語を除く外国語を選択するか、日本語受験を申請してください。

【社会人入試】

専 攻	外 国 語 科 目
英米文学専攻	英語(辞書持込可。ただし電子辞書は不可。)
ドキュメンテーション専攻	英語(辞書持込可。ただし電子辞書は不可。)

試験場・・・本学(P.29を参照)

時間割

【一般入試】＊秋季・春季

	日本文学専攻	英米文学専攻	文化財学専攻	ドキュメンテーション専攻
9:00～9:25		受	付	
9:25～9:30		出欠調査・問題配付		
9:30～11:30		専 門 科 目		
11:50～11:55		出欠調査・問題配付		
11:55～12:55		外 国 語 科 目		
12:55～13:45		昼	食	
13:45～13:50		出欠調査		
13:50～		口 述 試 問		

【社会人入試】＊秋季・春季

	日本文学専攻	英米文学専攻	文化財学専攻	ドキュメンテーション専攻
11：20～11：50		受 付	受 付	受 付
11：50～11：55		出欠調査・問題配付	出欠確認・問題配付	出欠調査・問題配付
11：55～12：55		外国語科目（英語）	小 論 文	外国語科目（英語）
12：55～13：45		昼 食	昼 食	昼 食
13：15～13：45	受 付		受 付	
13：45～13：50	出 欠 調 査	出 欠 調 査	出 欠 調 査	出 欠 調 査
13：50～	口 述 試 問	口 述 試 問	口 述 試 問	口 述 試 問

合格発表について

受験生本人がインターネットにアクセスすることにより合否結果を知ることができます。（当日 10 時 00 分より）
確認方法については次頁をご覧ください。

注）電話による合否結果並びに ID やパスワードについてのお問合せには応じません。

合否確認手順について

合格発表日時以降、受験生本人がスマートフォンおよびパソコンで「大学出願ネット」から合否確認ができます。

■ 確認手順

① 大学出願ネットにログイン



② 出願状況の確認ボタンをクリック



③ 対象選抜制度の詳細ボタンをクリック



④ ページ下部に表示されている合否結果を確認



※合格通知書についても「大学出願ネット」よりダウンロード可能です。

入学手続について

入学手続は、「入学手続システム」を使用します。合格された方は、各入試の手続期間内に「入学手続システム」にログインし、必要事項の入力・学納金の納入・入学手続書類一式の提出（郵送）を完了させてください。

一旦納入された入学金は、いかなる理由があっても返金できません。

＜入学手続システム URL＞ <https://tsurumi.campusconnect.jp/Sessions/login>



長期履修制度について

■制度の概要

この制度は、文学研究科において、時間的な制約等がある人に対して負担軽減を図り、柔軟な学習機会を提供することを目的としており、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年）を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し修了することを申出たときは、審査のうえ長期履修を認めるものです。

■申請資格

長期履修を申出ることのできる者は、文学研究科の在学生および入学予定者のうち、次のいずれかに該当する者とします。

- (1)職業を有する者（正規雇用・臨時雇用は問いません。ただし、単発的なアルバイトは除きます。）で、職務上の事情により標準修業年限で修了することが困難な者
- (2)育児、介護等により、標準修業年限で修了することが困難な者
- (3)その他やむを得ない事情により、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者

■在学期間

長期履修を許可された者（長期履修生）の在学期間は、博士前期課程の場合4年を限度とします。ただし、休学期間は在学期間に算入しません。

■申請方法・時期および適用の可否

文学研究科の入学試験合格者で長期履修を希望する者は、所定の期間内に、当該専攻主任と事前相談のうえ、入学手続締切日までに「長期履修申請書」「長期履修研究計画書」「申請事由を証明する書類」等を提出し、長期履修について申出ることとします。（文学研究科在学中に長期履修を希望する場合は、指導教授と事前相談のうえ、所定の期間内に同様に申出ることとします。）

長期履修の可否については、提出された申請書類等に基づき、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定します。

■長期履修期間の変更

長期履修期間の変更（延長または短縮）は、長期履修生として入学した者についてのみ、1年単位での変更の申請を受付けることとし、2月末日までに変更申請書類を提出し変更を申出する必要があります。ただし、修了する予定の学年時における延長および在学中に長期履修を申請し許可された者の変更申請は認めません。

長期履修期間の変更の可否については、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定します。なお、在学中に変更が許可されるのは1回のみです。

■学納金等

長期履修を許可された者は、学納金等として、入学金、授業料、施設設備費、学会費、学生保険料を、所定の期間内（入学予定者は入学手続期間内）に納入します。ただし、授業料については、標準修業年限分の授業料総額を、長期履修を許可された年数で割った金額（千円未満の端数が出た場合は初年度にその端数を合計した金額）を毎年納入します。具体的な納入金額は「学納金等について」を参照してください。

なお、許可された長期履修期間を超えて在学する場合の授業料等は、一般の学生の授業料等と同等の金額を適用します。また、在学中に学納金の改定および長期履修期間の変更が認められた場合には、金額が変更となります。

※学生保険料は入学手続時のみの納入となりますが、長期履修期間により金額が変動します。

長期履修制度の申請に関する詳細は、鶴見大学文学部教務課へお問合せください。

（Tel 045-580-8211・8212）

学納金等について

学納金は入学手続締切日までに納入してください。

なお、長期履修学生（P.8）として入学の場合、履修期間により金額が変わります。
過不足のない金額にて納入するよう、注意してください。

■初年度納入金

《全専攻共通》

（単位：円）

項 目	通常の履修の場合	長期履修学生の場合		備 考
	履修期間2年	履修期間3年	履修期間4年	
入 学 金	260,000	260,000	260,000	入学時のみ
授 業 料	670,000	* 448,000	335,000	年 額 (前期、後期の2回に分けて納入) ※ただし年額一括納入も可
施 設 設 備 費	100,000	100,000	100,000	入学年度のみ (前期、後期の2回に分けて納入) ※ただし年額一括納入も可
計	1,030,000	808,000	695,000	

* 履修期間3年の場合の2年次以降の授業料は、年額 446,000 円になります。

下記の諸費を代理徴収します。

《日本文学専攻・英米文学専攻・ドキュメンテーション専攻》

（単位：円）

項 目	通常の履修の場合	長期履修学生の場合		備 考
	履修期間2年	履修期間3年	履修期間4年	
学 会 費	2,000	2,000	2,000	入学時のみ
学 生 保 険 料※	2,430	3,620	4,660	入学時のみ
計	4,430	5,620	6,660	

《文化財学専攻》

（単位：円）

項 目	通常の履修の場合	長期履修学生の場合		備 考
	履修期間2年	履修期間3年	履修期間4年	
学 会 費	3,000	3,000	3,000	入学時のみ
学 生 保 険 料※	2,430	3,620	4,660	入学時のみ
計	5,430	6,620	7,660	

※学生保険料は、学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険であり、金額が変更される場合があります。

■入学手続時納入額

《日本文学専攻・英米文学専攻・ドキュメンテーション専攻》

（単位：円）

	通常の履修の場合	長期履修学生の場合	
	履修期間2年	履修期間3年	履修期間4年
年 額 納 入 の 場 合	1,034,430	813,620	701,660
前期分を納入の場合	649,430	539,620	484,160

《文化財学専攻》

（単位：円）

	通常の履修の場合	長期履修学生の場合	
	履修期間2年	履修期間3年	履修期間4年
年 額 納 入 の 場 合	1,035,430	814,620	702,660
前期分を納入の場合	650,430	540,620	485,160

- (1) 入学金・諸費以外は2回に分けて納入することができます。後期分の納入期限は、入学年度の9月末です。
- (2) 入学手続期間内に書類の提出および学納金等の納入手続きをしない場合は入学を許可しません。
- (3) 鶴見大学卒業生および卒業見込み者は、入学金を半額免除とし、施設設備費は全額免除します。

博士前期課程の概要

趣 旨

本学は、禅の精神に基づく社会福祉の増進と、社会文化の向上に貢献するために、昭和 38 年、文学部（日本文学科・英米文学科（平成 14 年 4 月英語英米文学科に名称変更））をもって開学し、昭和 45 年に歯学部、昭和 52 年に大学院歯学研究科を設置、平成元年に至り、大学院文学研究科修士課程（日本文学専攻・英米文学専攻）を開設しました。更に日本文学専攻は平成 6 年に、英米文学専攻は平成 9 年に、それぞれ修士課程を吸収して、日本文学専攻博士前期・後期課程、英米文学専攻博士前期・後期課程として新たに発足しました。

また、平成 10 年 4 月、文学部既設の 2 学科に加え文化財学科を、更に平成 16 年 4 月にドキュメンテーション学科を設置しました。この文化財学科を基礎とする大学院文学研究科文化財学専攻博士前期・後期課程を平成 14 年 4 月に増設し、更にドキュメンテーション学科を基礎とする大学院文学研究科ドキュメンテーション専攻博士前期・後期課程を平成 30 年 4 月より増設しました。

文学研究科博士前期課程は、文学部における教育の基礎のうえに、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的として、志有る人材を広く求めるものです。

研究科・専攻

研 究 科	専 攻
文学研究科	日本文学専攻
	英米文学専攻
	文化財学専攻
	ドキュメンテーション専攻

標準修業年限 2 年

入学定員・収容定員

研 究 科	専 攻	入 学 定 員	収 容 定 員
文学研究科	日本文学専攻	5 人	10 人
	英米文学専攻	5 人	10 人
	文化財学専攻	3 人	6 人
	ドキュメンテーション専攻	3 人	6 人

課程の修了

2 年以上在学し、所定の授業科目について 32 単位以上修得し、さらに必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査に合格し、かつ最終試験に合格することが必要です。

学位授与

本大学院文学研究科博士前期課程において所定の課程を修了した者に対して、日本文学専攻、英米文学専攻およびドキュメンテーション専攻は修士（文学）、文化財学専攻は修士（文化財学）の学位を授与します。

専攻の特色 日本文学専攻

- (1) 日本文学は古典と近代とを問わず、いずれも文献資料による検証を繰り返し、問題の解明を図るという文献学的方法を基本とした教育・研究を推進します。
- (2) 文学部日本文学科開設以来、図書館と協力して、古典では、源氏物語・歌書・連歌書を中心とした典籍、近代では、広汎な作家の自筆原稿・初版本・文芸雑誌などの稀覯本の蒐集に努めてきました。これらをもとに、文献学の基礎である書誌学の方法を、原典に即して指導します。
- (3) 基本的な資料解釈の方法を学ぶ必修の文献読解科目（Ⅰ群）の上に、研究科目（Ⅱ群）と演習科目（Ⅲ群）を組み合わせることで研究対象を正確に把握し、基礎学力が身につく教育課程を構成しています。
- (4) 今日の日本文学研究は多岐に深化して、単にみづからの領域のみにとどまらず、隣接諸学の援用が是非とも必要です。日本文学と関係の深い日本語学の相互補完は勿論、更に書誌学・日本史学・中国文学・仏教文学などが特に重視され、これ等を併せ教授することによって、視野の広い国際社会にも通用する日本文学研究者を育成します。
- (5) 特に古典文学や近代文学研究に必要な日本文化や西欧文化の学習に対応するため、他専攻科目の履修ができるよう配慮しています。
- (6) 教育職・専門職等、広く社会で活動する人材育成のために、総合的な読解力や幅広い知識の獲得を支援します。

専任教員および研究分野（2025年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
片 山 倫太郎	教 授	近代文学	川端康成他、明治・大正・昭和文学
月 岡 道 晴	教 授	上代文学	万葉集
永 吉 寛 行	教 授	国語教育	古文から現代文まで
田 代 一 葉	准教授	近世文学	和歌、詩歌と絵画
表 野 和 江	准教授	中国文学	中国出版文化
田 口 暢 之	准教授	中古文学	源氏物語、和歌
遠 藤 佳 那 子	准教授	日本語学	国語学史、近代日本語、日本語文法
中 野 顕 正	准教授	中世文学	能、仏教文学

開設科目（2025年度）

授 業 科 目			単 位	授 業 科 目			単 位
Ⅰ 群	文 献 読 解 Ⅰ（古典）		2	Ⅲ 群	日本文学演習Ⅰ		4
	文 献 読 解 Ⅱ（近代）		2		日本文学演習Ⅱ		4
	文 献 読 解 Ⅲ（漢文）		2		日本文学演習Ⅲ		4
	文 献 読 解 Ⅳ（日本語学）		2		日本文学演習Ⅳ		4
Ⅱ 群	日本文学研究Ⅰ（上代）		4		日本文学演習Ⅴ		4
	日本文学研究Ⅱ（中古）		4		日本語学演習		4
	日本文学研究Ⅲ（中世）		4		日本史史料演習		4
	日本文学研究Ⅳ（近世）		4		日本書誌演習Ⅰ（古典）		4
	日本文学研究Ⅴ（近代）		4		日本書誌演習Ⅱ（近代）		4
	日本語学研究		4				
	中国文学研究		4				
	日本書誌研究		4				

※修了所要単位 32 単位のうち、Ⅰ群より 4 科目 8 単位、Ⅱ群、Ⅲ群よりそれぞれ 3 科目 12 単位以上を履修し、単位を修得しなければなりません。なおⅠ群は必修とし原則として 1 年次に履修することが必要です。

専攻の特色 英米文学専攻

現今の学問領域の多様化、超域化にともなって、英米文学、英語学、英米文化、英語教育に加え表象文化や比較文学・文化など、院生の幅広い研究ニーズに対応した指導体制をとっています。具体的には以下のとおりです。

- (1) 文学部開設以来積み重ねてきた英米文学・英語学の正統的な方法を基準に、英米文学・英語学の研究を更に深めます。
- (2) 学部において設置されている、英米文化研究あるいは表象文化研究を更に深めて研究します。
- (3) 英語教育に関連する様々な分野の知識を持った研究者ならびに力量を持った英語教育の実践者を育成します。
- (4) 比較文化研究所を学部にも有する比較文学・文化研究を更に深めて研究します。
- (5) 上記研究を達成するために、総合的英語力養成に十分配慮しています。
- (6) 以上の研究を補完するために、言語学研究、異文化間コミュニケーション研究、ヨーロッパ文学・文化研究、アカデミック・ライティング、アカデミック・プレゼンテーションなどの科目を置いています。

専任教員および研究分野（2025 年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
マーティン・C・コネリー	教 授	中世英文学、イギリス文学、アイルランド文学、英米文化、Oral & Written English Communication	James Joyce / modern Irish poetry / late medieval English literature / English speaking & writing skills
菅 野 素 子	教 授	イギリス文学、英語文学、文学批評	イギリス文学、特に戦後のイギリスに移動してきた作家の作品を研究しています。複数の言語や文化の狭間に生きる作家がどのように場を切り開いているかに関心があります。
深 谷 素 子	教 授	アメリカ文学・文化、英語教育(多読)	20 世紀の小説 (F.Scott Fitzgerald など) を中心に、資本主義社会とアメリカ文学・文化の関わりについての研究。多読を中心とした英語教育研究。
鈴 木 周太郎	教 授	アメリカ史、ジェンダー研究	初期アメリカのジェンダー史について、特にヨーロッパとの思想の交流と関連づけながら考察する。
草 薙 優 加	教 授	英語教授法、応用言語学、第二言語習得論、非言語コミュニケーション、ドラマ・イン・エデュケーション	英語教育における談話と相互行為（非言語コミュニケーション、身ぶり、マルチモダリティ）、英語教育と教養・表現（読書、アート、ドラマ）を、主に質的研究法を用いて研究する。
松 村 香 奈	講 師	英語科教育、言語テスト理論、Classroom-based assessment、EFL ライティングとスピーキング研究	外国語としての英語の教育とその評価方法に関する研究。混合研究法を用い、量的（統計処理中心）と質的（会話分析など数量で測れない変項）研究を統合し、英語力の形成的評価研究を行う。
松 山 明 子	教 授	言語社会学、ウェールズのバイリンガルリズム	異なる言語の話者がいる多文化社会の課題についてウェールズ語復興の事例から考察する。
宮 下 治 政	教 授	英語学	英語統語論・比較統語論・生成文法理論（極小主義）・言語変化（英語史）
柁 香 央 里	准教授	西欧史・ドイツ語圏文化	今日へと繋がる 16 世紀ヨーロッパの諸相を、「ルネサンス・宗教改革・大航海時代」をキーワードに探究し、アフリカ、中南米、アジアとの諸関係についても比較検討を行う。

開設科目（2025 年度）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
イギリス文学演習	4	異文化間コミュニケーション研究	4
アメリカ文学演習	4	アカデミック・ライティング	4
英語学演習	4	アカデミック・プレゼンテーション	4
英米文化演習	4	英語教育研究	4
イギリス文学研究	4	英語教育演習	4
アメリカ文学研究	4	国際文化研究	4
英語学研究	4		
英米文化研究	4		
ヨーロッパ文学・文化研究	4		
比較文学・文化研究	4		
言語学研究	4		
表象文化研究	4		

※修了所要単位は 32 単位です。

専攻の特色 文化財学専攻

文化財学専攻は、「文献資料」、「考古資料」、「美術工芸資料」、「文化財科学」の4つの専門分野を設定し、文化財学全般についての深い知見を有する人材の育成を通じ、指導的な研究者の養成を図ります。文化財学専攻の4つの分野での教育・研究の特色は以下のとおりです。

(1) 文献資料分野

文献資料を主な研究対象とし、古文書・古典籍関係を基礎とした高度な文献資料学の掘り下げに取り組む。本学が所蔵する日本史関係の文献資料を考究し、文化財学に必要な諸資料の読解・分析力を養うことを教育指導の特色としています。また、古文書の実物を用い、整理しつつ破損を修復するためのより高度な技術の習熟にも配慮しています。

(2) 考古資料分野

物質資料を主な研究対象とする考古資料の分野では、発掘に伴う出土品ばかりでなく、史料や伝世品をも参照しつつ、広義の歴史学を追究する研究法を教授します。さらに物質資料の科学的な調査・分析法と資料の保存を視野に入れた技術力を備えた研究者を養成するための指導・教育を行います。

(3) 美術工芸資料分野

美術工芸資料の分野では、文化財を生み出した歴史的意義を解明することに重点を置き、実物を取り扱い保存修理にも寄与できる研究者の養成を目指します。

(4) 文化財科学分野

文化財科学の分野では、文化財のもつ材質の科学的特性を調査・分析し、文化財の保存・修復や、遺跡保存をなし得る研究者の育成を目指します。

(5) 上記の4分野は相互に関連する所が多く、2分野以上にまたがる研究を行うことにより学際的、総合的な教育・研究を通じ、新たな文化財学を構築します。

専任教員および研究分野（2025年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
上 杉 彰 紀	教 授	考古学	日本・南アジア考古学
小 林 恭 治	教 授	日本語史	文字史
近 藤 祐 介	准教授	歴史学	中世寺院史
鈴 木 一 馨	教 授	宗教学	東アジア宗教文化
田 中 和 彦	教 授	考古学	日本・東南アジア考古学
田 中 知佐子	准教授	美術史	東洋・日本美術
西 澤 美穂子	准教授	歴史学	日蘭交渉史
星 野 玲 子	教 授	文化財科学	石造文化財
矢 島 律 子	教 授	工芸史	陶芸史

開設科目（2025年度）

授 業 科 目		単位	授 業 科 目		単位
A 群	文化財学特殊講義Ⅰ（文献資料学）	4	B 群	文化財学演習Ⅰ（文献資料学）	4
	文化財学特殊講義Ⅱ（文献資料学）	4		文化財学演習Ⅱ（考古資料学）	4
	文化財学特殊講義Ⅲ（考古資料学）	4		文化財学演習Ⅲ（美術・工芸資料学）	4
	文化財学特殊講義Ⅳ（考古資料学）	4		文化財学演習Ⅳ（分析・保存科学）	4
	文化財学特殊講義Ⅴ（美術・工芸資料学）	4	C 群	建築文化財特殊講義	4
	文化財学特殊講義Ⅵ（美術・工芸資料学）	4		日本仏教史特殊講義	4
	文化財学特殊講義Ⅶ（分析・保存科学）	4		文献資料演習（文字・訓点）	4

※修了所要単位 32 単位のうち、A群より3科目 12 単位以上、B群より2科目 8 単位以上を履修し、単位を修得しなければなりません。

専攻の特色 ドキュメンテーション専攻

ドキュメンテーション専攻は、高度デジタル化社会の中で、人文学の分野においても時代に即した技能や知識を修得した人材育成が求められていることから、図書館学、書誌学、情報学の3分野を融合した新しい時代に呼応する教育研究の場を設けるために設置されます。

鶴見大学文学部にドキュメンテーション学科が設立された時に掲げられた「従来の図書館情報学では十分ではなかった文献資料そのものの専門教育の強化と、それらを効率的に扱うための先端的人文系情報処理学の専門教育の強化」の目標は、2004年の学科設立以来その重要さは変わらず、むしろ情報のデジタル化の勢いは当時の未来予測を超え、先端的人文系情報処理の重要性はいっそう増しているといえます。このような情勢においては、学部レベルの教育環境ではもはや十分ではなく、より高度な教育と研究の場を設けることが求められています。以上の背景から、図書館学、書誌学、情報学の3分野を融合した教育・研究を目指すのが本専攻です。

企業や図書館でさまざまな情報を扱う人々やナレッジマネジメント等に従事する社会人は、既習の知識や技能がもはや現在ある問題の解決には十分ではないと認識しているながらも、この解決には複合領域的な知識が求められる一方、それらは個人での学習が難しいという状況に直面しています。本専攻では、このような実務者に向けても、教育研究の場を提供し、複合領域的な分野における問題に対しても対応できる理論的な問題解決能力を身につけ、実践の現場でそれらを応用し、問題解決に取り組むことができる人材を育成します。

本専攻の特徴として、研究指導は図書館学、書誌学、情報学を専門とする教員が専門領域の枠を超え、連携して集団で指導します。また、社会で発生する複合領域的な現実課題に対応する授業を設けています。

本専攻の博士前期課程では、数百年前の文献資料から電子媒体、更には高度な情報処理を介する多様な形態の情報を等しく扱う能力を修得するための、既存の学問領域としてある図書館学、書誌学、人文系情報学の基礎を身につけ、多様なドキュメンテーションに対応する知識と技能を修得した専門家として、学際領域特有の柔軟性と開拓力を持った人材を育成します。

専任教員および研究分野（2025年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
大 矢 一 志	教 授	電子資料	電子資料論、人文資料の計算機処理
伊 倉 史 人	教 授	和歌文学・書誌学	歌学書・中世古今集注・江戸期の叢書（群書類従、丹鶴叢書等）
元 木 章 博	教 授	教育情報学、福祉情報工学、図書館情報学（特に障害者サービス）	ICTを活用し、公的サービス機関や教育組織等における問題を解決に導く研究を実施します。その対象は、図書館や学校、大学、福祉施設等です。
河 西 由美子	教 授	教育学・図書館情報学	情報リテラシー・メディアリテラシー・読解力の育成など
望 月 有希子	准教授	図書館情報学	図書の劣化・保存の研究
小 南 理 恵	講 師	図書館情報学・図書館史	20世紀以降のアメリカ公共図書館を対象に、知的自由の理念と実践に関する研究を行っています。
万 波 寿 子	講 師	書誌学（とくに版本書誌学）	仏教版本・近世京都の出版文化

開設科目（2025年度）

授 業 科 目			単位	授 業 科 目		単位
基礎科目	ドキュメンテーション基礎	8	個別領域 科目群 (A群)	図書館情報学研究Ⅰ(a,b,c,d)	8(各2)	
研究指導 科目	研究論文演習Ⅰ	4		図書館情報学研究Ⅱ(a,b,c,d)	8(各2)	
	研究論文演習Ⅱ	4		図書館情報学研究Ⅲ(a,b,c,d)	8(各2)	
課題型 科目群 (*)	課題研究Ⅰ	4		人文情報学研究Ⅰ(a,b,c,d)	8(各2)	
	課題研究Ⅱ	4		人文情報学研究Ⅱ(a,b,c,d)	8(各2)	
	実地研究Ⅰ	4		人文情報学研究Ⅲ(a,b,c,d)	8(各2)	
	実地研究Ⅱ	4		書誌学研究Ⅰ(a,b,c,d)	8(各2)	
				書誌学研究Ⅱ(a,b,c,d)	8(各2)	
			個別領域 科目群 (B群)	ドキュメンテーション研究Ⅰ	2	
ドキュメンテーション研究Ⅱ	2					

※修了所要単位は32単位です。ただし基礎科目8単位、研究指導科目より4単位以上、課題型科目群および個別領域科目群より12単位以上を履修し、単位を修得しなければなりません。なお、基礎科目は初年度に、研究指導科目は毎年いずれかの履修が必要です。

*課題型科目群は、社会人入試により入学し、かつ在学時に雇用されている所属を持つ者を対象とした科目となります。対象となるか事前に確認を希望する場合は、出願前にお問合せください。

4. 博士後期課程

出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位を有する者および 2026 年 3 月修士の学位を取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 本研究科において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

出願書類と記入上の注意

●必要書類として別途郵送が必要となるもの

調 査 書	本学所定用紙を使用してください。 ※本学文学研究科博士前期課程（修士課程）修了者および修了見込み者は「在学中の状況および所見」欄・「推薦理由」欄の記入は不要です。（推薦者職名・氏名および印は必要です。）
修了証明書または 修了見込証明書	大学（大学院）において記入厳封のうえ交付されたものを提出してください。 ※各選考日より 3 箇月以内に発行されたものに限りです。 ※改姓等により、単位成績証明書・卒業証明書等に記載の氏名が現在の氏名と異なる場合は、改姓の事実が証明できるもの（戸籍抄本等）を併せて提出してください。（コピー不可）
単 位 成 績 証 明 書	
「在留カード」の写し（コピー）	在留中の <u>外国籍の志願者のみ</u> 提出してください。
所 属 長 の 受 験 許 可 書	<u>在職中の志願者のみ</u> 提出してください。
修 士 論 文 等	《日本文学専攻》修士論文またはこれに準ずる論文。それぞれ要旨をつけてください。 《英米文学専攻》修士論文の写しおよびその要旨またはこれに準ずる既発表論文 修士論文が日本語で表記されている場合は英文の概要を、英語で表記されている場合は日本語での概要を提出してください。概要は日本語の場合は 2,000 字程度、英語の場合は 800 ワード程度を目安とします。 《文化財学専攻》修士論文の写しおよびその要旨またはこれに準ずる既発表論文 《ドキュメンテーション専攻》修士論文の写しおよびその要旨またはこれに準ずる既発表論文 ※ただし、本学文学研究科博士前期課程（修士課程）修了者および修了見込み者は、提出不要です。
研 究 計 画 書	A4 判任意様式 2,000 字程度。必ず題名・氏名を明記してください。

出願書類提出方法

郵 送	簡易書留・速達で郵送してください。
-----	-------------------

* 出願書類一式をインターネット出願登録後に出力した宛名ラベルを貼付した封筒に入れ提出してください。
 なお、一度受理した提出書類並びに入学検定料は、返還いたしません。

受験または就学上の配慮に関する事前相談について

身体機能の障がいや疾病等により、入学試験を受ける際、または入学後の学生生活において特別の配慮を必要とする方は、本学の教育方法や支援体制および施設設備などで対応することが可能かを協議するため、本学との事前相談を行う必要がありますので、必ず**出願前（※各選考日の1箇月前まで）**に本学入試センターへご連絡ください。事前相談の結果に基づき、障がいや疾病等の程度に応じた可能な範囲の措置を講じます。

ただし、ご希望のすべてに対応できるとは限りませんので予めご承知おきください。また、配慮内容によっては、関係する書類の提出を求める場合や、対応に時間を要する場合がありますので、できるだけお早めにご連絡ください。

なお、出願後に大きな病気や怪我をし、受験上の配慮が必要となった場合も、速やかに本学入試センターまでご連絡ください。

入学検定料および納入方法について

■入学検定料

30,000円

※大規模自然災害等による「災害救助法」適用地域において被災した場合は、入学検定料が全額免除になります。（下の二重枠内をご確認ください。）

※大規模自然災害等による「災害救助法」適用地域において被災(罹災)した場合【被災地特例】

過去2年以内に「災害救助法」が適用された地域にて被災(罹災)した受験生で、罹災(被災)証明書等とともに本学所定の「入学検定料免除申請書」を提出された方に対しては、入学検定料を全額免除いたします。「入学検定料免除申請書」の様式等、詳細につきましては、本学受験生応援サイト（<https://support.tsurumi-u.ac.jp>）をご覧ください。

※該当する方は出願前に本学ホームページをご確認のうえ、申請書類は必ず必要書類とともに提出してください。

なお、合格発表日以降の申請は一切受けられませんので、ご注意ください。

※「災害救助法」適用地域については、内閣府ホームページ（https://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/kyuujo_tekiyou.html）をご覧ください。

■納入方法

別途「大学出願ネット出願の手引き」をご参照ください。

■入学検定料に関する注意

納入された入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還いたしません。

- ・検定料を納入したが、出願書類を提出しなかった場合
- ・検定料を納入し、出願書類を提出したが、出願が受理されなかった場合
- ・検定料を誤って、所定の金額よりも多く納入した場合

〔返還請求方法〕 本学入試センターまでお問合せください。「入学検定料返還願（本学所定用紙）」をお送りしますので、必要事項を記入のうえ提出してください。

受験当日の注意について

熟読のうえ入学試験に臨んでください。

- (1)受験票は必ず持参してください。万一、受験票を紛失または忘れた場合は、入場の際に受付に申出て仮受験票の交付を受けてください。
- (2)試験場入場の際、受付において係員が受験票を確認しますので提示してください。
- (3)試験場は、受付開始時刻から入場できます。受験番号により案内しますので受験番号を確認しておいてください。出欠調査開始時刻までに、受験番号が貼付けられた指定の席に着席してください。
- (4)試験場内では試験監督者の指示に従ってください。
- (5)試験場内では、携帯電話等の電源を切ってカバンに収納してください。
- (6)筆記試験の解答には、鉛筆を使用してください。
- (7)筆記試験中机の上に置けるものは、受験票・鉛筆・消しゴム・時計（時刻表示以外の機能を備えているものは使用禁止、アラームは消しておくこと。）および辞書（持込み可の指定がある科目に限りです。電子辞書は不可）のみとし、これ以外の所持品は置かないでください。下敷きを持参しても使用できません。
- (8)上履きを用意する必要はありません。
- (9)試験終了まで試験場の外には出られません。午後まで試験のある受験生は、昼食を持参してください。試験場内での昼食の販売は行いません。
- (10)付添者の入場はできません。

■入学試験時の不測の事態の対応について

不測の事態（気象災害、交通事故または災害等により交通機関の運行に支障をきたした場合等）の対応窓口・お問合せ先は下記のとおりです。

鶴見大学入試センター TEL 045-580-8219・8220

※緊急のお知らせがある場合は、受験生応援サイトに掲出します。（<https://support.tsurumi-u.ac.jp>）

【重要】入試における不正行為の取扱いについて

鶴見大学では、真摯に受験に臨む受験生の皆さんが不利益を被ることがないように、不正行為者に対し、厳正な措置を執ります。

ついては、入学者選抜試験における不正行為およびその取扱いを次のとおりとします。

なお、今回公表する内容は現時点のものであり、今後変更する可能性もありますので、本学からの発表にご注意願います。

(不正行為を行った場合の取扱いについて)

不正行為を行った場合は失格となり、当日の入学試験の全教科に加え、出願した本学の本年度入学試験のすべての教科の得点を無効とします。(大学入学共通テスト利用型についても全教科・科目の得点を無効とします。既に合格した本学の入学試験がある場合は合格を取り消します。)

その場合、入学検定料は返還されません。

行った不正行為に関して、不正行為者の保護者および在籍(出身)大学に対して報告する場合があります。

なお、試験終了後に不正行為が発覚した場合であっても、同様に取扱いします。

(出願書類について)

出願の際に当学に提出した書類・資料、提供した情報等に偽造・虚偽記載・剽窃等があった場合は、不正行為となる場合があります。

(筆記試験について)

○不正行為となること

1.カンニング行為(試験科目に関するメモやコピーなどを机上等に置いたり見たりすること、使用を許可されていない教科書、参考書、辞書等の内容を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。)をすること。

2.他の受験者に答えを教えたり、カンニングの手助けをしたりすること。

3.「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり、解答を始めたりすること。

4.「解答やめ」の指示の後に、解答を続けること。

5.試験時間中に、使用を許可されていない物品(補助具や電子機器類など)を使用すること。

※携帯電話、スマートフォン、タブレット型端末、ウェアラブル端末等の電子機器については、電源のON/OFFに関わらずかばんの外に出ていた時点で使用とみなします。

6.別の受験者になりすまして受験すること。

7.問題冊子や解答用紙を試験室から持ち出すこと。

○不正行為となる場合があること

1.試験時間中に、使用を許可されていない書籍類・補助具・電子機器類をかばん等にしまわず、身につけていたり手に持っていたりすること。

2.試験時間中に携帯電話や時計の音(着信・アラーム・振動音など)を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。

3.試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申し出をすること。

4.問題冊子や解答用紙の見せ合い、話し合い、のぞき見等の疑いのある行為を行うこと。

5.試験時間中に、長い間机の下に手を入れたり、服のポケット等に手を入れたりすること。

6.試験場において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。

7.試験場において、監督者の指示に従わないこと。

8.その他、試験の公平性を損なう恐れのある行為をすること。

(面接試験について)

○不正行為となること

1.面接試験中に他の人と連絡をとりあうこと。

2.面接試験の録画・録音、またはそれをSNS等のインターネット上へ掲載すること。

3.面接終了後に、これから面接をおこなう他の受験生に内容を伝えること。

○不正行為となる場合があること

1.受験者控室または面接室前で無用な会話をすること。

2.受験者控室または面接室前で待ち時間に携帯電話等の通信機器を使用すること。

3.受験者控室または面接室前で係員の指示に従わないこと。

4.その他、試験の公平性を損なう恐れのある行為をすること。

選考方法

《日本文学専攻》

研究計画書、口述試問、調査書、単位成績証明書、論文による総合判定

《英米文学専攻》

修士論文、研究計画書、口述試問、調査書、単位成績証明書による総合判定

《文化財学専攻》

筆記試験（英語）、研究計画書、口述試問、調査書、単位成績証明書、修士論文（または学術論文、コピー可）による総合判定

《ドキュメンテーション専攻》

筆記試験（英語）、研究計画書、口述試問、調査書、単位成績証明書、論文による総合判定

筆記試験科目

専 攻	外 国 語 科 目
文化財学専攻	英語（辞書持込可 ただし電子辞書は不可）
ドキュメンテーション専攻	英語（辞書持込可 ただし電子辞書は不可）

試験場 ・ ・ ・ 本学（P.29 を参照）

時間割

	日本文学専攻	英米文学専攻	文化財学専攻	ドキュメンテーション専攻
11:20~11:50			受 付	受 付
11:50~11:55			出欠調査・問題配付	出欠調査・問題配付
11:55~12:55			外国語科目（英語）	外国語科目（英語）
12:55~13:45			昼 食	昼 食
13:15~13:45	受 付	受 付		
13:45~13:50	出 欠 調 査	出 欠 調 査	出 欠 調 査	出 欠 調 査
13:50~	口 述 試 問	口 述 試 問	口 述 試 問	口 述 試 問

合格発表について

受験生本人がインターネットにアクセスすることにより合否結果を知ることができます。（当日 10 時 00 分より）
確認手順については次項をご覧ください。

注）電話による合否結果並びに ID やパスワードについてのお問合せには応じません。

合否確認手順について

合格発表日時以降、受験生本人がスマートフォンおよびパソコンで「大学出願ネット」から合否確認ができます。

■ 確認手順

① 大学出願ネットにログイン



② 出願状況の確認ボタンをクリック



③ 対象選抜制度の詳細ボタンをクリック



④ ページ下部に表示されている合否結果を確認



※合格通知書についても「大学出願ネット」よりダウンロード可能です。

入学手続について

入学手続は、「入学手続システム」を使用します。合格された方は、各入試の手続期間内に「入学手続システム」にログインし、必要事項の入力・学納金の納入・入学手続書類一式の提出（郵送）を完了させてください。

一旦納入された入学金は、いかなる理由があっても返金できません。

＜入学手続システム URL＞ <https://tsurumi.campusconnect.jp/Sessions/login>



長期履修制度について

■制度の概要

この制度は、文学研究科において、時間的な制約等がある人に対して負担軽減を図り、柔軟な学習機会を提供することを目的としており、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年）を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し修了することを申出たときは、審査のうえ長期履修を認めるものです。

■申請資格

長期履修を申出ることのできる者は、文学研究科の在学生および入学予定者のうち、次のいずれかに該当する者となります。

- (1)職業を有する者（正規雇用・臨時雇用は問いません。ただし、単発的なアルバイトは除きます。）で、職務上の事情により標準修業年限で修了することが困難な者
- (2)育児、介護等により、標準修業年限で修了することが困難な者
- (3)その他やむを得ない事情により、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者

■在学期間

長期履修を許可された者（長期履修生）の在学期間は、博士前期課程の場合4年を限度とします。ただし、休学期間は在学期間に算入しません。

■申請方法・時期および適用の可否

文学研究科の入学試験合格者で長期履修を希望する者は、所定の期間内に、当該専攻主任と事前相談のうえ、入学手続締切日までに「長期履修申請書」「長期履修研究計画書」「申請事由を証明する書類」等を提出し、長期履修について申出ることとします。（文学研究科在学中に長期履修を希望する場合は、指導教授と事前相談のうえ、所定の期間内に同様に申出ることとします。）

長期履修の可否については、提出された申請書類等に基づき、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定します。

■長期履修期間の変更

長期履修期間の変更（延長または短縮）は、長期履修生として入学した者についてのみ、1年単位での変更の申請を受け付けることとし、2月末日までに変更申請書類を提出し変更を申出する必要があります。ただし、修了する予定の学年時における延長および在学中に長期履修を申請し許可された者の変更申請は認めません。

長期履修期間の変更の可否については、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定します。なお、在学中に変更が許可されるのは1回のみです。

■学納金等

長期履修を許可された者は、学納金等として、入学金、授業料、施設設備費、学会費、学生保険料を、所定の期間内（入学予定者は入学手続期間内）に納入します。ただし、授業料については、標準修業年限分の授業料総額を、長期履修を許可された年数で割った金額（千円未満の端数が出た場合は初年度にその端数を合計した金額）を毎年納入します。具体的な納入金額は「学納金等について」を参照してください。

なお、許可された長期履修期間を超えて在学する場合の授業料等は、一般の学生の授業料等と同等の金額を適用します。また、在学中に学納金の改定および長期履修期間の変更が認められた場合には、金額が変更となります。

※学生保険料は入学手続時のみの納入となりますが、長期履修期間により金額が変動します。

長期履修制度の申請に関する詳細は、鶴見大学文学部教務課へお問合せください。

（TEL 045-580-8211・8212）

学納金等について

学納金は入学手續締切日までに納入してください。

なお、長期履修学生（P.20）として入学の場合、履修期間により金額が変わります。

過不足のない金額にて納入するよう、注意してください。

■初年度納入金

《全専攻共通》

（単位：円）

項 目	通常の履修の場合	長期履修学生の場合				備 考
	履修期間3年	履修期間4年	履修期間5年	履修期間6年		
入 学 金	260,000	260,000	260,000	260,000	入学時のみ	
授 業 料	670,000	* 504,000	402,000	335,000	年 額 （前期、後期の2回に分けて納入） ※ただし年額一括納入も可	
施 設 設 備 費	100,000	100,000	100,000	100,000	入学年度のみ （前期、後期の2回に分けて納入） ※ただし年額一括納入も可	
計	1,030,000	864,000	762,000	695,000		

* 履修期間4年の場合の2年次以降の授業料は、年額 502,000 円になります。

下記の諸費を代理徴収します。

《日本文学専攻・英米文学専攻・ドキュメンテーション専攻》

（単位：円）

項 目	通常の履修の場合	長期履修学生の場合				備 考
	履修期間3年	履修期間4年	履修期間5年	履修期間6年		
学 会 費	3,000	3,000	3,000	3,000	入学時のみ	
学 生 保 険 料※	3,620	4,660	5,750	6,740	入学時のみ	
計	6,620	7,660	8,750	9,740		

《文化財学専攻》

（単位：円）

項 目	通常の履修の場合	長期履修学生の場合				備 考
	履修期間3年	履修期間4年	履修期間5年	履修期間6年		
学 会 費	4,500	4,500	4,500	4,500	入学時のみ	
学 生 保 険 料※	3,620	4,660	5,750	6,740	入学時のみ	
計	8,120	9,160	10,250	11,240		

※学生保険料は、学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険であり、金額が変更される場合があります。

■入学手續時納入額

《日本文学専攻・英米文学専攻・ドキュメンテーション専攻》

（単位：円）

	通常の履修の場合	長期履修学生の場合			
	履修期間3年	履修期間4年	履修期間5年	履修期間6年	
年 額 納 入 の 場 合	1,036,620	871,660	770,750	704,740	
前期分を納入の場合	651,620	569,660	519,750	487,240	

《文化財学専攻》

（単位：円）

	通常の履修の場合	長期履修学生の場合			
	履修期間3年	履修期間4年	履修期間5年	履修期間6年	
年 額 納 入 の 場 合	1,038,120	873,160	772,250	706,240	
前期分を納入の場合	653,120	571,160	521,250	488,740	

- (1) 入学金・諸費以外は2回に分けて納入することができます。後期分の納入期限は、入学年度の9月末です。
- (2) 入学手續期間内に書類の提出および学納金等の納入手続きをしない場合は入学を許可しません。
- (3) 鶴見大学卒業生は、入学金を半額免除とし、施設設備費は全額免除します。
- (4) 本学文学研究科博士前期課程同専攻修了者は、施設設備費を全額免除します。
- (5) 本学文学研究科博士前期課程より、引続き同博士後期課程に入学する場合、入学金を全額免除します。

博士後期課程の概要

趣 旨

本学は、禅の精神に基づく社会福祉の増進と、社会文化の向上に貢献するために、昭和 38 年、文学部（日本文学科・英米文学科（平成 14 年 4 月英語英米文学科に名称変更））をもって開学し、昭和 45 年に歯学部を開設、更に昭和 52 年には大学院歯学研究科、平成元年には、大学院文学研究科修士課程（日本文学専攻・英米文学専攻）を設置しました。以後ますます教育・研究内容の充実につとめ、平成 6 年には日本文学専攻が、平成 9 年には英米文学専攻が博士後期課程を発足させるに至りました。また、平成 14 年 4 月文学研究科文化財学専攻博士前期・後期課程を増設しました。更に、平成 30 年 4 月には文学研究科ドキュメンテーション専攻博士前期・後期課程を増設することになりました。

博士後期課程においては、男女・年齢・国籍を問わず、真摯な研究者に更に広く門戸を開き、わが国および英語文化圏の各時代、各分野にわたる文学・言語・文化の諸相の本質を深く探求し、その特性を解析する能力と鋭い感性を備えた優秀な学究を養成し、もって学界に新風を送りこむとともに、一般社会への貢献を果そうとするものです。

研究科・専攻

研 究 科	専 攻
文学研究科	日本文学専攻
	英米文学専攻
	文化財学専攻
	ドキュメンテーション専攻

標準修業年限 3 年

入学定員・収容定員

研 究 科	専 攻	入 学 定 員	収 容 定 員
文学研究科	日本文学専攻	2 人	6 人
	英米文学専攻	2 人	6 人
	文化財学専攻	2 人	6 人
	ドキュメンテーション専攻	2 人	6 人

課程の修了

3 年以上在学し、所定の授業科目について日本文学専攻および英米文学専攻は 20 単位以上、文化財学専攻は 8 単位以上、ドキュメンテーション専攻は 12 単位以上修得し、さらに必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査に合格し、かつ、最終試験に合格することが必要です。

学位授与

本大学院文学研究科博士後期課程において所定の課程を修了した者に対して、日本文学専攻、英米文学専攻およびドキュメンテーション専攻は博士（文学）、文化財学専攻は博士（文化財学）の学位を授与します。

専攻の特色 日本文学専攻

(1) 教育研究上の特色

博士後期課程においては、全科目を特殊研究と演習の2群に分け、特殊研究では時代別日本文学と、日本語学および中国文学の研究を行います。また、演習科目では高度の専門性を備えた演習を行いつつ、各指導教授の指導のもとで論文指導を行います。修了所要単位は20単位以上とします。3年以上在学し、所定の授業科目について20単位以上修得した者は、最終試験を受けるとともに、所定の手続きを経て博士論文を提出、審査を受けることができます。

(2) 教育課程の特色

各専門分野において指導的立場にある教授・講師陣を擁し、図書館所蔵の豊富な文献資料を駆使して、充実した研究指導を行います。特に日本文学研究では、開学時以来の学風として、広く学界に認められ評価されている、文献学的・実証的研究方法による演習を織りまぜ、資料の正確な読解、本文批判の方法等に熟達せしめることを重視しています。日本文学におけるすぐれた博士論文提出と以降の研究活動に資するよう教育していくことは言うまでもありません。

貴重文献資料による指導の具体例を若干あげると、以下のとおりです。

(イ) 古典籍関係

図書館に所蔵する多数の貴重典籍の中でも、質量ともに学界に定評のある、源氏物語関係写本・版本・古筆断簡等を軸に、源氏物語本文研究の拠点として、将来その中枢となるべき研究者を養成します。また中古・中世の歌集・歌学書や連歌関係資料も甚だ多く、また近世における多彩な出版資料の蒐集も特色の一つで、これらを生かした手堅い研究を進め得る新進を育成していきます。

(ロ) 近代文学関係

広汎な作家を対象とした、初版本・文芸雑誌などの稀覯本や未発表原稿・自筆短冊・書簡等の蒐集に基づき、現在の学界では未開拓のジャンルである近代書誌学の方法論を確立し、その専門家を養成します。

(ハ) 仏教文学関係

日本曹洞宗の開祖道元の真筆資料をはじめ、五山版や、多数の仏教関係所蔵資料により、日本文学の基底に脈々と流れる仏教思想に注目し、その文学への影響と仏教文学の様相を考究します。

以上のような文献学的研究を基盤として、いずれの分野においても、文芸的感性と歴史的視野とを併せ持った研究を進めることは言うまでもありません。これら高度の指導にこたえて、活発な研究活動を行う優秀な研究者が多数生まれ出ることを期待しています。

専任教員および研究分野（2025年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
片 山 倫太郎	教 授	近代文学	川端康成他、明治・大正・昭和文学
遠 藤 佳那子	准教授	日本語学	国語学史、近代日本語、日本語文法
表 野 和 江	准教授	中国文学	中国出版文化
田 口 暢 之	准教授	中古文学	源氏物語、和歌

開設科目（2025年度）

授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
I 群	上代文学特殊研究	4	II 群	上代文学演習	4
	中古文学特殊研究	4		中古文学演習	4
	中世文学特殊研究	4		中世文学演習	4
	近世文学特殊研究	4		近世文学演習	4
	近代文学特殊研究	4		近代文学演習	4
	日本語学特殊研究	4		日本語学演習	4
	中国文学特殊研究	4			

※指導教授の授業科目12単位を含め、20単位以上を履修し単位を修得します。

専攻の特色 英米文学専攻

(1) 教育課程の特色

博士後期課程においては、全科目を特殊研究と演習の2群に分け、特殊研究では英文学、米文学、英語学、英米文化、比較文学・文化、英語教育、国際文化、異文化間コミュニケーションの各分野に関する高度の専門研究を行います。

3年以上在学し所定の授業科目について20単位以上修得した者は、最終試験を受けるとともに、所定の手続きを経て博士論文を提出し、審査を受けることができます。

(2) 教育研究上の特色

後期課程においては、前期課程で培った研究の基礎、すなわち正確な読みと分析力をもとに、研究者としての能力を高め、研究成果を学会や世に問うことのできる人材を育成することを目標にしています。そのため各指導教授よりなされる個人指導が後期課程の教育の中心となります。具体的には学生は指導教授の演習科目に加えて、個人指導を受けなくてはなりません。また、各自の研究の周辺領域にも目配りすべきことを配慮し、演習特殊研究を併せて20単位を最低修得単位としています。最終目標は博士論文の作成にあるので、それを目標とした研究計画を作り、それに沿った研究を進めるよう指導します。この過程で、発信力を育成し、学会発表や学会誌への投稿を奨励します。

(イ) 英文学・文化関係

- ① 作品の深い理解と綿密な分析能力を涵養します。
- ② 研究対象となる作家や作品、テーマに関する問題発見能力を養成し、オリジナリティーのある研究を目指します。
- ③ 本学図書館は充実した原典と研究書を有しています。また、文献コンテンツ契約も多くなされています。特に博士課程においては、先行研究に配慮し、基礎文献、関連文献を問わず、参考文献を広く渉猟することが必須となります。

(ロ) 米文学・文化関係

- ① 作品を綿密に読む姿勢を重んじ、精密な読解に基づいた作品分析を基本とします。そのうえで、作品と不可分の関係にある社会的・文化的事象にも広く目を向け、社会・文化・歴史という大きな枠組みの中で作品を捉える視点をも養います。これにより、現代にあって文学作品を研究することの意義を見据えていきます。
- ② 文学作品の背景をなす、あるいは文学作品と相関関係にある米国の文化も研究対象とします。

(ハ) 英語学関係

- ① 英語学の研究とは、第一に、英語の言語事実の精緻な観察・分析及びその理論化への志向を同等に尊重すること、第二に、研究対象を共時的観点と通時的観点の両方から等しく考察することです。
- ② 最近のわが国の英語学研究は、生成文法理論や認知言語学の強い影響下で、言語理論構築を目指す研究に比重が置かれる傾向にあり、研究領域も社会言語学や心理言語学などへ著しく拡大し、大きな成果を上げつつあるが、本専攻ではそれらの成果を摂取することに努めつつ、統語論・形態論・音韻論・意味論・語用論などの英語学の下位分野を、上記2つの特色を基盤に据えて研究することを目的とし、これに留意した指導を心掛けています。
- ③ 上記以外には、英語と他言語の比較統語論なども研究対象となります。

(ニ) 英語教育関係

- ① 英語教育に関する高度な専門知識を持った研究者ならびに英語教育研究に精通し、教育改善のために意欲的に研究を行う実践者を育成します。
- ② 英語教育研究には、英語学をはじめとした広範な分野の知識と視野の獲得、各自が深求する研究課題に関する文献を収集する力、渉猟した文献を批判的に読み深く理解する力、そのための高度な英語力を要します。これらの能力を基盤に、綿密に計画された実証的研究を遂行します。
- ③ 実証研究では、各自の研究課題に最も適した研究手法を選択することが必須です。人文・社会科学の諸分野から研究手法を学ぶ、学際的な姿勢が求められます。

(ホ) その他

上記以外に、前期課程において研究の範疇としている比較文学・文化、国際文化、異文化間コミュニケーションも指導教授の承認のもと研究対象として認められます。副指導教員が指導にあたることもあります。

専任教員および研究分野（2025 年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
マーティン・C・コネリー	教 授	中世英文学、イギリス文学、アイルランド文学、英米文化、Oral & Written English Communication	James Joyce / modern Irish poetry / late medieval English literature / English speaking & writing skills
菅 野 素 子	教 授	イギリス文学、英語文学、文学批評	イギリス文学、特に戦後のイギリスに移動してきた作家の作品を研究しています。複数の言語や文化の狭間に生きる作家がどのように場を切り開いているかに関心があります。
深 谷 素 子	教 授	アメリカ文学・文化、英語教育（多読）	20 世紀の小説（F.Scott Fitzgerald など）を中心に、資本主義社会とアメリカ文学・文化の関わりについての研究。多読を中心とした研究
鈴 木 周太郎	教 授	アメリカ史、ジェンダー研究	初期アメリカのジェンダー史について、特にヨーロッパとの思想の交流と関連づけながら考察する。
草 薙 優 加	教 授	英語教授法、応用言語学、第二言語習得論、非言語コミュニケーション、ドラマ・イン・エデュケーション	英語教育における談話と相互行為（非言語コミュニケーション、身ぶり、マルチモダリティ）、英語教育と教養・表現（読書、アート、ドラマ）を、主に質的研究法を用いて研究する。
松 山 明 子	教 授	言語社会学、ウェールズのバイリンガリズム	異なる言語の話者がいる多文化社会の課題についてウェールズ語復興の事例から考察する。
宮 下 治 政	教 授	英語学	英語統語論・比較統語論・生成文法理論（極小主義）・言語変化（英語史）

開設科目（2025 年度）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英文学特殊研究Ⅰ	4	英語学演習	4
英文学特殊研究Ⅱ	4	英米文化特殊研究	4
米文学特殊研究Ⅰ	4	比較文学・文化特殊研究	4
米文学特殊研究Ⅱ	4	英語教育特殊研究	4
英語学特殊研究	4	国際文化特殊研究	4
英文学演習	4	異文化間コミュニケーション特殊研究	4
米文学演習	4		

※指導教授の演習科目および特殊研究 12 単位を含め、20 単位以上を履修し、単位を修得します。

専攻の特色 文化財学専攻

文化財学専攻は、「文献資料」、「考古資料」、「美術工芸資料」、「文化財科学」の4つの専門分野を設定し、文化財学全般についての深い知見を有する人材の育成を通じ、指導的な研究者の養成を図ります。文化財学専攻の4つの分野での教育・研究の特色は以下のとおりです。

(1) 文献資料分野

文献資料を主な研究対象とし、古文書・古典籍関係を基礎とした高度な文献資料学の掘り下げに取り組む。本学が所蔵する日本史関係の文献資料を考究し、文化財学に必要な諸資料の読解・分析力を養うことを教育指導の特色としています。また、古文書の実物を用い、整理しつつ破損を修復するためのより高度な技術の習熟にも配慮しています。

(2) 考古資料分野

物質資料を主な研究対象とする考古資料の分野では、発掘に伴う出土品ばかりでなく、史料や伝世品をも参照しつつ、広義の歴史学を追究する研究法を教授します。さらに物質資料の科学的な調査・分析法と資料の保存を視野に入れた技術力を備えた研究者を養成するための指導・教育を行います。

(3) 美術工芸資料分野

美術工芸資料の分野では、文化財を生み出した歴史的意義を解明することに重点を置き、実物を取り扱い保存修理にも寄与できる研究者の養成を目指します。

(4) 文化財科学分野

文化財科学の分野では、文化財のもつ材質の科学的特性を調査・分析し、文化財の保存・修復や、遺跡保存をなし得る研究者の育成を目指します。

(5) 上記の4分野は相互に関連する所が多く、2分野以上にまたがる研究を行うことにより学際的、総合的な教育・研究を通じ、新たな文化財学を構築します。

専任教員および研究分野（2025年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
上 杉 彰 紀	教 授	美術史	日本・南アジア考古学
近 藤 祐 介	准教授	歴史学	中世寺院史
鈴 木 一 馨	教 授	宗教学	東アジア宗教文化
田 中 和 彦	教 授	考古学	日本・東南アジア考古学
西 澤 美穂子	准教授	歴史学	日蘭交渉史
星 野 玲 子	教 授	文化財科学	石造文化財
矢 島 律 子	教 授	工芸史	陶芸史

開設科目（2025年度）

授 業 科 目	単 位
文化財学特殊研究Ⅰ（文献資料学）	4
文化財学特殊研究Ⅱ（考古資料学）	4
文化財学特殊研究Ⅲ（美術・工芸資料学）	4
文化財学特殊研究Ⅳ（分析・保存科学）	4
研究指導	

※8単位以上を履修し、単位を修得します。

専攻の特色 ドキュメンテーション専攻

ドキュメンテーション専攻は、高度デジタル化社会の中で、人文学の分野においても時代に即した技能や知識を修得した人材育成が求められていることから、図書館学、書誌学、情報学の3分野を融合した新しい時代に呼応する教育研究の場を設けるために設置されます。

鶴見大学文学部にドキュメンテーション学科が設立された時に掲げられた「従来の図書館情報学では十分ではなかった文献資料そのものの専門教育の強化と、それらを効率的に扱うための先端的人文系情報処理学の専門教育の強化」の目標は、2004年の学科設立以来その重要さは変わらず、むしろ情報のデジタル化の勢いは当時の未来予測を超え、先端的人文系情報処理の重要性はますます増しているといえます。このような情勢においては、学部レベルの教育環境ではもはや十分ではなく、より高度な教育と研究の場を設けることが求められています。以上の背景から、図書館学、書誌学、情報学の3分野を融合した教育・研究を目指すのが本専攻です。

企業や図書館でさまざまな情報を扱う人々やナレッジマネジメント等に従事する社会人は、既習の知識や技能がもはや現在ある問題の解決には十分ではないと認識していながらも、この解決には複合領域的な知識が求められる一方、それらは個人での学習が難しいという状況に直面しています。本専攻では、このような実務者に向けても、教育研究の場を提供し、複合領域的な分野における問題に対しても対応できる理論的な問題解決能力を身につけ、実践の現場でそれらを応用し、問題解決に取り組むことができる人材を育成します。

本専攻の特徴として、研究指導は図書館学、書誌学、情報学を専門とする教員が専門領域の枠を超え、連携して集団で指導します。また、社会で発生する複合領域的な現実課題に対応する授業を設けています。

本専攻の博士後期課程では、数百年前の文献資料から電子媒体、更には高度な情報処理を介する多様な形態の情報を等しく扱う能力を修得するための、既存の学問領域としてある図書館学、書誌学、人文系情報学の基礎を身につけ、図書館において指導的な立場にたち、運営はもとより、図書館の持つ本来の情報提供機関としての今後を探る研究者としても主導的な立場で活躍する人材並びにドキュメントを扱う職業領域で活躍する研究・開発者を養成します。

専任教員および研究分野（2025年度）

氏 名	職 名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
大 矢 一 志	教 授	電子資料	電子資料論、人文資料の計算機処理
伊 倉 史 人	教 授	和歌文学・書誌学	歌学書・中世古今集注・江戸期の叢書（群書類従、丹鶴叢書等）
元 木 章 博	教 授	教育情報学、福祉情報工学、図書館情報学（特に障害者サービス）	ICTを活用し、公的サービス機関や教育組織等における問題を解決に導く研究を実施します。その対象は、図書館や学校、大学、福祉施設等です。
河 西 由美子	教 授	教育学・図書館情報学	情報リテラシー・メディアリテラシー・読解力の育成など
万 波 寿 子	講 師	書誌学（とくに版本書誌学）	仏教版本・近世京都の出版文化

開設科目（2025年度）

授 業 科 目	単 位
研究指導Ⅰ	4
研究指導Ⅱ	4
研究指導Ⅲ	4
ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ	4
ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ	4
ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ	4

※研究指導Ⅰ～Ⅲから4単位以上、ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ～Ⅲから4単位以上を含め、12単位以上履修し、単位を修得します。

5. その他

教育職員免許状の取得

- (1) 中学校・高等学校教諭一種免許状をすでに取得している者が、本学文学研究科博士前期課程を修了し所定の単位を修得した場合には、中学校・高等学校教諭専修免許状が授与されます。
- (2) 初めて教職課程の所定の単位を修得しようとする者は、本学文学研究科博士前期課程を修了し所定の単位を修得することと併せて、鶴見大学文学部科目等履修生として教職課程の所定の単位を修得すれば、同様に免許状を取得することができます。（ただし、大学院本来の学修・研究に支障のない限りにおいて、これを許可します。）

本学文学研究科にて取得できる免許状の種類並びに免許教科

研 究 科	専 攻	免許状の種類	教 科
文学研究科	日本文学専攻	中学校教諭専修免許状	国 語
		高等学校教諭専修免許状	
	英米文学専攻	中学校教諭専修免許状	外 国 語 (英 語)
		高等学校教諭専修免許状	
	文化財学専攻	中学校教諭専修免許状	社 会
		高等学校教諭専修免許状	地 理 歴 史

奨学金制度

次の奨学金制度があります。

- (1) 本学奨学金
毎年度、各専攻若干名に対して奨学金を給付します。
- (2) 日本学生支援機構奨学金（貸与）
- (3) その他の奨学金
地方自治体並びに民間育英事業団体等

本学試験会場案内図

※試験場の下見などのために
 校舎内に入ることはいけません。

【周辺のホテル】

- ① ホテルリブマックスBUDGET横浜鶴見
- ② 東横イン横浜鶴見駅東口
- ③ ベストウェスタン横浜
- ④ ホテルメッツ横浜鶴見
- ⑤ ホテルテトラ鶴見



- 【交通】**
 - JR 京浜東北線「鶴見駅」西口より徒歩5分
 - 京浜急行線「京急鶴見駅」西口より徒歩7分
 曹洞宗大本山總持寺境内入口…＊

本学ホームページでも、案内図をご覧いただけます。携帯電話・スマートフォンはこちらから→



※入学試験に関する個人情報の取扱いについて

出願にあたってお知らせいただいた氏名・住所その他の個人情報、および出身校からご提供いただいた書類に記載の個人情報は、入学試験実施（出願処理・試験実施）、合格発表、入学手続、入学準備およびこれらに付随する業務（必要書類送付等）、並びに個人を特定しない形で入学試験統計の作成を行うために利用します。また、利用目的の達成に必要な範囲内で、業務委託先に個人情報を提供する場合は、守秘義務を明記した契約の締結とともに、業務目的の達成に必要な範囲内において情報を提供するものとし、個人情報の安全管理が図られるよう、受託者に対する必要かつ適切な監督を行います。

お 問 合 せ 先	
出願書類・手続に関すること	大学出願ネットサポートセンター 電話番号 042-732-3951 受付時間 平日 9:00 ~ 17:00 (出願期間中のみ受付)
その他入試全般に関すること	鶴見大学 入試センター 受付時間 平日 9:00 ~ 16:00 土曜 9:00 ~ 12:00
鶴見大学 入試センター 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 電話番号 045-580-8219・8220	